

所在地：熊本県天草市
面積：1,017.6ha

選定年月日：平成23年2月7日、平成24年9月19日追加・名称変更
選定基準：二(一)(四)(七)(八))

(1) 概要

天草下島南西部、羊角(ようかく)湾の北岸に位置する崎津では、中世には外国船が出入りする港として、近世から近代にかけては貿易や石炭搬出など流通・往来の拠点として、天然の良港を活かした港湾都市が形成されました。狭隘な湾内のわずかな平坦地に家屋が密集し、浦へ出るためにトウヤと呼ばれる小路が数軒毎に形成されています。海上には、竹やシュロを利用したカケと呼ばれる構造物が設けられ、漁船の碇泊や魚干しなど、生活・生業上の施設として利用されています。

また、崎津の入江の奥に位置する今富では、今富川の支流である2つの小河川が形成する谷地形に集落が形成されており、江戸時代から数次にわたる干拓により拡大された農地において、水田耕作を中心とした生業が営まれています。今富からは農産物・林産物が崎津へ搬出される一方、水産物が崎津から今富へもたらされるなど、両集落の密接な関係は現在も維持されています。

このように、崎津・今富では、歴史的に流通・往来の拠点であるとともにカケ・トウヤなど独特の土地利用の在り方を示す崎津の漁村景観、及び近世以降の干拓により農地を広げつつ山裾に集落を営んできた今富の農村景観による一体の文化的景観が形成されています。



崎津集落



カケと石積み護岸

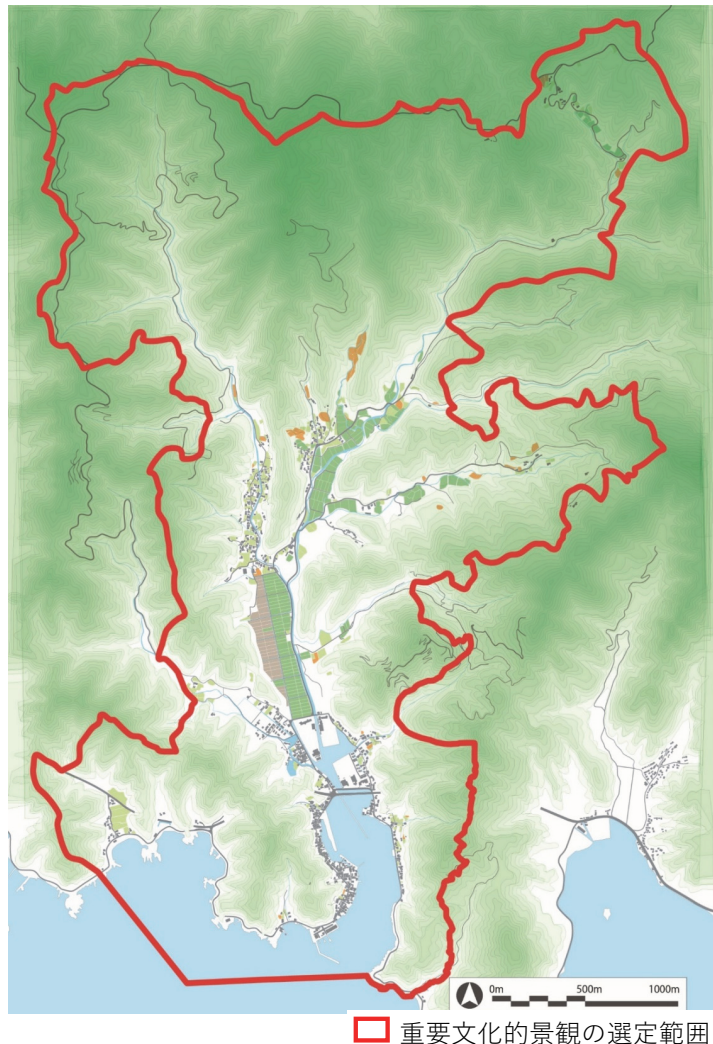


迫地形に発達した今富集落



干拓により拡大されてきた農地

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：112件

（３）選定による効果

崎津・今富集落では、平成19～23年にかけての文化的景観選定を目指した調査により、地域住民が「景観」を意識するようになりました。

重要文化的景観をベースに、平成30年に世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として登録されたことで、その意識は一層高まりました。来訪者へのおもてなし、竹やタコツボを花プランターとして集落に花を植える活動、市民や地元中学校ガイド団体による活動、空き家を有効活用した民泊や飲食店の創業など、集落全体に活力が生まれています。



集落内店舗おもてなし



地域団体による花プランターづくり

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 天草市崎津の漁村景観保存調査報告書・保存計画書(平成22年10月、天草市)
- 天草市今富の農村景観保存調査報告書・保存計画書(平成24年3月、天草市)
- 「崎津・今富の文化的景観」整備活用計画(平成26年3月策定、令和2年3月改定、天草市)
- ホームページ<https://www.city.amakusa.kumamoto.jp/index.html>

（５）活用事例

事例43-02 ①

空き家修理による集落散策拠点の整備

文化庁補助金

●行政による取り組み

崎津集落内において、歴史的な価値を持つ建物を保存活用するため、市へ寄贈を受けた2軒の建築物を修理しました（いずれも重要な構成要素）。

ひとつは、旧旅館みなと屋で、昭和11年に建てられた旅館でしたが、長く空き家となっており、老朽化が進んでいました。崎津集落の中心部にあり、港町として崎津が賑わっていた頃の風情を示す建物として保存を図り、丁寧な手作業解体による部材の再利用、間取りの忠実な再現を基本方針として、解体修理を行いました。現在は、「崎津資料館みなと屋」の名称で、崎津集落の歴史・景観を理解するための資料館として活用し、多くの来館者が訪れています。

もうひとつは、崎津の漁業を支えた網元の邸宅である旧網元岩下家です。明治期の建築を解体修理を行い、「旧網元邸岩下家よらんかな」として整備しました。海へ突き出た漁師の作業スペース「カケ」も併せて復元したことで、集落散策の休憩所や地元ガイドによる景観説明のスポットなどとして広く活用されています。また、清掃管理は委託業務として、地域住民の方々に積極的に関わっていただいています。

✓ グッドデザイン賞 グッドデザイン・ベスト100（令和4年度）



崎津資料館みなと屋



旧網元邸岩下家よらんかな



みなと屋を案内する地元中学生ガイド



よらんかなで行われたスケッチイベント

団体等情報：崎津資料館みなと屋

<https://minatoya.amakusaweb.jp/MyHp/pub/>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり
・

(5) 活用事例

事例43-02 ②

市民参加による交流広場の整備と活用

●行政と住民等の協働による取り組み

崎津集落にかつてあった旅館「紋付屋」は、玄関口を海側に設け、船により出入りできた「海の旅館」でした。建物は平成初期に取り壊されましたが、跡地には、このことを伝える海へ続く階段と門柱が残されています。

この跡地は市に寄贈され、市は家屋が密集して建つ集落内における数少ない憩いの広場「崎津観光交流広場」として整備を行いました。

交流広場の設計に際しては、専門家だけで検討するのではなく、使い手となる地域の人々の思いを盛り込むため、全6回に及ぶワークショップを開催し、住民の人々と徹底的に議論して計画を作りました。

ワークショップで定めた「みんなで管理する」というルールを実現するため、広場に設置するベンチなどは、イベントにあわせて、利用者が出し入れを行っています。

現在は、海を眺める場所として来訪者の目を楽しませているほか、地域内の商店主や住民たちでつくる地域おこしグループによるクリスマスマルシェなどの住民イベントに利用されています。

✓ グッドデザイン賞 グッドデザイン・ベスト100（令和4年度）



崎津観光交流広場



整備管理委員会では模型を使って議論



住民参加のワークショップ



地域住民が維持管理を行い、イベント会場としても活用



① 地域内での魅力の共有

② 活性化の目標の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり